

# 甘木朝倉 介護保険事業者 協議会 会報

甘木朝倉介護保険事業者協議会 会報  
Vol.4 平成13年10月1日発行 第2巻第3号 (通巻第4号)

## Vol. 4

### ごあいさつ

朝倉保健所長 中島 乃婦子



甘木朝倉介護保険事業者協議会が発足1周年を迎えられることをお祝い申し上げます。

本年4月1日付けで朝倉保健所勤務になりました中島でございます。

最初に、事業者の方々が介護保険をより良いものにしていこうとされている熱意に、心から敬意を表します。

介護保険法案は平成7年に国会に提出されて平成9年に成立し、12年4月から施行されました。非常に短期間にこれほどの大きな制度改革がなされたのは、急速な高齢社会の進展と、介護を家族だけではとうてい担いきれないという背景のもとに、市町村や事業者を始め関係者の方々が大変な御努力をされた結果であると認識しております。

本年10月からは高齢者の保険料が本来額になります。これにつきましては低所得高齢者に対する様々な施策も講じられていくことになるようです。

厚生労働省の全国的な調査では、利用サービスの満足度は満足54%、ほぼ満足32%で両者を合わせると86%になります。今後の介護サービスの質の向上に向けた取り組みとしては、介護サービスの評価手法等の検討や、身体拘束廃止に向けての取り組み、痴呆介護の充実などが予定されています。(老健局総務課：介護保険の実施状況、厚生2001.8 p17)

保健所といたしましては、できるだけ要介護にならずに過ごせる「健康寿命」の延伸のための健康づくりにも力を尽くしたいと願っております。健康づくりと介護サービスの充実は、どちらも「誰もが安心して老いることのできる甘木朝倉地域」の実現に欠かせないものであります。今後の本協議会のますますのご発展を祈念してご挨拶いたします。



# 事業報告

## ●第1回スタッフセミナー開催

去る7月26日(木)18時30分より「めくばー三輪健康福祉館」(三輪町)において当協議会研修部主催の第1回スタッフセミナーが開催されました。

大変暑い時期で、さらに仕事を終えられてからの時間であったにもかかわらず、総数157名の皆様方にご参加いただきました。今年度最初となるこのスタッフセミナーは「皮膚感染症」と「在宅酸素利用者のケア」という2つのテーマで実施致しました。(座長：福嶋正孝先生)

始めに、古林皮膚科医院院長の古林修一先生より「皮膚感染症について」という表題で、主に疥癬についてお話いただきました。疥癬の特徴、感染経路また治療方法や介護者の注意すべき点等についてわかりやすく説明され、会場からは、施設、通所施設での入浴や送迎時の感染対策等について質問が挙がっていました。次の「在宅酸素利用者のケアについて」はテイジン在宅医療九州(株)福岡営業所 久留米出張所所長代理井下 康弘氏よりお話いただきました。在宅酸素療法は通称HOT (Home Oxygen Therapy) と呼ばれており、在宅酸素療法の現在までにいたる過程、酸素濃縮器の説明、取り扱いのチェックポイント等、機器のこと等について詳しくご説明いただきました。また、会場入り口には、酸素濃縮器、酸素ポンプ、ウォーカー、酸素サーバー等の実物が展示され、セミナー終了後は沢山の方々で機器の展示に見



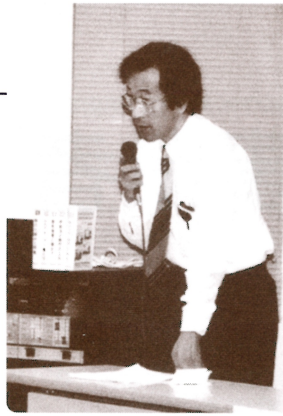
▲井下康弘氏



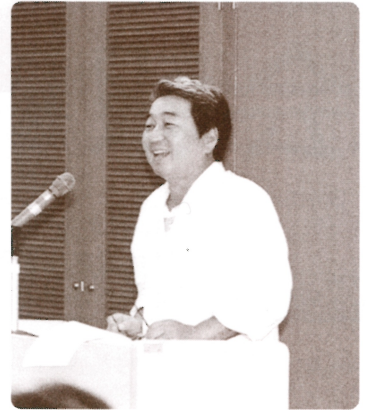
鬼塚純子氏▶



▲セミナー風景



▲福嶋正孝座長



▼古林修一先生

入っておられました。

続いて、甘木朝倉医師会訪問看護ステーション管理者鬼塚純子氏より「なぜ在宅酸素療法なのか」というテーマでお話いただきました。最初に呼吸についての基礎知識と在宅酸素療法の必要性についてふれられ、在宅酸素療法者に対する在宅、施設での留意点などについての話があり、緊急時には落ち着いて対応すること、また、医療、保健、福祉の連携が大変重要であることを強調されておられました。その後の質疑も多く出され、在宅酸素療法者の希望で酸素を外すことの可否や、火気の取り扱いの件、又、施設への入所希望があった場合に現行制度下においてはなかなか受け入れが難しい状況にあること等活発な議論が交わされました。今回のセミナーについては、アンケートに「大変勉強になった」「参考になった」等の意見も多く書かれておりおりましたが、一方で「専門用語が多用されて理解しにくい」「資料を配付して欲しい」等の意見もありました。

次回は11月にセミナーを開催させていただきますが、今回のアンケートを元に、取り上げるテーマや進め方を工夫していきたいと考えております。(記 野口秀康)

## ●設立1周年記念事業開催

去る9月22日(土)午後2時より、当協議会設立1周年を記念して「みんなで支える痴呆症～優しく介護して～」をテーマに、講演会、介護劇、シンポジウムをピーポット甘木中ホールにおいて開催しました。(後援：福岡県、甘木市、朝倉郡町村会/甘木手話の会の協力で手話通訳実施)

当日は、晴れやかな秋晴れて、彼岸の初日にもかかわらず、約270人もの皆様方にご来場いただき、痴呆の問題に対する関心の高さが伺い知れました。

蓮池会長の主催者挨拶の後、ご来賓を代表し福岡県保健福祉部介護保険室の坂本司指導育成係長よりご挨拶を頂戴しました。

第一部の講演会では、今津赤十字病院精神科部長の田北昌史先生より、「痴呆症とは？その症状と治療」をテーマにご講演いただきました。平均寿命が延びたことで痴呆症の出現が増えたこと、また一般的な物忘れと痴呆とはどのように違うのか、アルツハイマー型痴呆と脳血管性痴呆の発症の様子等、スライドを用いながらわかりやすく説明いただきました。まとめとして、痴呆性高齢者に対しては、特に介護者が、心の余裕をもって接することが大事であること、またおかしいと思ったら早めに医師でも事業者にも相談することが大事である旨話され講演を締めくくられました。

第二部では、介護老人福祉施設日迎の園の職員の皆様による介護劇が上演されました。「痴呆注意報」という題で、次第に痴呆症



■が進行する高齢者と家族との関係に始まり、最終的には介護保険を利用しながら在宅生活を維持して介護を行う様子までが熱演されました。

第三部では、「痴呆は身近な問題です」をテーマに火野坂副会長を座長としてシンポジウムが行われました。始めに、呆け老人をかかえる家族の会福岡県支部代表樋口かをる先生が実母の介護体験を中心に話され、呆け老人をかかえる家族の会福岡県支部に入会されたいきさつ、また痴呆老人の個性や状態の相違という点にもふれられ、介護者が一人一人に応じた対応をしていくことが大切である、と力説されました。その他、現行の介護保険制度の問題点として痴呆老人の介護度は低く出る傾向があるため、介護される家族が日々の様子等をできるだけ記録しておき、訪問調査時にはその旨調査員に正確に伝達することも必要であると話されました。続いて、当協議会所属で職種異なる3人のシンポジストによる話に移りました。まるごとケアプランサービス宝珠の郷のケアマネージャー安岡義之氏は、痴呆症の高齢者に対する介護計画を立案していく場合、家族の絆が切れないようなプラン作成が重要である事、またサービスにかかわる事業者が一人の高齢者に対する情報の共有化をしなければならないことを話されました。デイケアセンターうらうめの介護職員熊谷真由美氏は、痴呆性高齢者の方が通所系サービスを利用された場合の様子や利点、短期入所や施設入所の対応等について話されました。

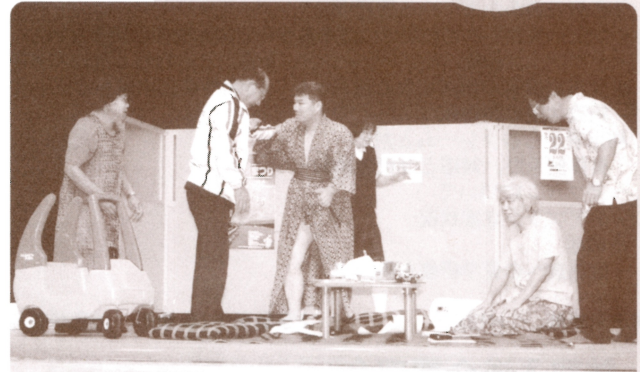


◀坂本司係長



▶田北昌史先生

▼介護劇



▲シンポジウム (樋口先生、田北先生、火野坂座長/左から)



▲シンポジウム (熊谷(真)氏、熊谷(真)氏、安岡氏/左から)



▲介護用具の展示

杷木町社会福祉協議会のホームヘルパー熊谷擇子氏は、痴呆性高齢者に対するヘルパー業務の様子や最近問題になっていることとして、物が無くなったといわれる利用者がおられ、最後にはヘルパーである自分達が泥棒呼ばわりされるのではないかと心配しているスタッフがいることも話されました。

その後の質疑では、「痴呆の予防方法はあるのか」「痴呆症は治るのか」といった質問が出され、田北先生からは、「痴呆症自体はその他の多くの内科疾患と同様、治してしまうことはできない。ただ、予防としては日々の健康管理が重要である。」旨返答がありました。

火野坂座長より、「とにかく、おかしいと思ったら家族だけで抱え込まないで、早めに主治医や各事業者に相談して欲しい。是非、この協議会を利用していただきたい」との話があり、樋口先生からは、「介護保険は始まったばかり。10年～15年のスパンで見ましょう。」「痴呆老人には、疑似家族のような小さな単位の施設が適しているの、グループホームがその切り札といえるのでは」と話されシンポジウムは締めくくられました。

会場外のホールでは、同時に福祉用具部会による福祉用具の展示も行われ、今回は痴呆性高齢者の介護に役立つ徘徊センサーや位置発見システム等の展示も行われていたこともあり、講演前後には、多くの皆様方が展示に見入っておられました。

協議会として初めての大きな事業の取り組みでしたので、すべてがうまくいったとは言えませんが、今後も地域の皆様方のお役にたてる組織でありたいと願っております。ご協力いただきました皆様、誠にありがとうございました。(記 野口秀康)





## 訪問看護部会

部会長 鬼塚純子

- (1) 第6回部会内容
1. 新規加入会員紹介
    - ・甘木中央病院 (病院訪問看護)
  2. 訪問介護との連携で訪問看護を実施した症例(癌末期利用者)
    - ・訪問介護員が深夜付添(午後11時～早朝5時)を実施→訪問看護事業所にFAXで状態報告(数日間緊急体制で準備)→訪問看護の実施(状態観察、家族への状況説明及び近親者への連絡指導、主治医に連絡)→主治医の看取り→死後処置
    - ・ご家族側から「皆様方のおかげで最後まで看取ることができた」との感謝の言葉をいただいた。
    - ・これからの課題:ターミナル期の訪問看護の役割・内容の充実他事業所との連携の取り方
- (2) 第7回部会内容
1. 拡大会議報告
  2. 研修部より依頼のスタッフセミナーの内容について
    - ・皮膚科の先生の講義/在宅酸素について

第6回部会開催 H13.5.8 全4事業所、4名が参加  
第7回部会開催 H13.6.5 全4事業所、4名が参加

## 通所リハビリ部会

部会長 江藤 清子

1. 通所リハビリの状況と課題
  - ①通所者の利用状況
  - ②各施設のかかえている問題点
    - ・少ないスタッフで利用者に対するサービスが充分に出来ない
    - ・ケアプラン作成、カンファレンス、介護にと追われる状況である
2. 利用者からのクレームと対応
  - ・具体例及び、対応と今後の検討
3. ケアプランについて
  - ・ケアプラン立案状況
4. その他
  - ・他施設への見学研修を検討中

第3回開催 H13.6.8 8事業所中7事業所、16名が参加

## 訪問入浴介護部会

部会長 芳野 和子

1. 今年度の部会開催予定とテーマについて
  - ①第5回 9月11日(火) \*各事業所訪問入浴車での参加
    - ・コムスンより、排水ポンプ等の清掃や消毒の方法、担架ワイヤーの取り外しや修理の仕方、浴槽まで平行に移動する方法等について指導いただく。
  - ②第6回 12月11日(火)
    - ・医師より疾病について(血圧・心臓病)の講話指導
    - ・感染症(MRSA等)について予防、消毒、注意事項など
  - ③第7回 3月12日(火)
    - ・本年度の反省について、次期部会長の選出
2. 各事業所の現状報告と情報交換
  - ①困っていること
    - ・利用者が少ない
    - ・主治医のない利用者の場合、急変時にNS独自の判断では対応できない
    - ・末期癌の利用者の方で、主治医より平行にして移動させるよう指示を受けたが、3人で介助してもその良い方法がわからない
    - ・入浴時のみNS委託のため、スタッフの顔ぶれが違いとまどう
  - ②意見交換
    - ・入浴中の便失禁対策として、ドレッシングテープを使用
    - ・胃瘻や褥瘡の処置は訪問看護と合わせて実施
    - ・入浴車内や使用器具の消毒方法、煙突に野鳥が巣づくりする問題等

第4回開催 H13.6.12 全3事業所、4名が参加

## 介護療養施設部会

部会長 川波 浩司

- (1) 第4回部会内容(事務長対象に実施)
1. 各施設の病床利用状況の報告
  2. 意見交換会
    - ①運営上の問題点について
    - ②基準上の問題点について
    3. その他
      - ・今後も定期的に事務長会を実施する
- (2) 第5回部会内容(ケアマネージャー対象に実施)
1. 各施設の病床利用状況の報告
  2. 問題点の検討
    - ①サービスについて
      - ・サービスとは本来どうあるべきかを考えることが必要(文書化して職員同士再認識も必要)
      - ・イベント等の内容に行き詰まりを感じている。
      - ・利用者との対話を重視している
    - ②ケアプランと介護認定について
      - ・ケアプランの見直しについて
        - 状態に応じての見直しの必要性について家族と協議
        - 3ヶ月毎に関係職員が集まりカンファレンスを実施し主治医に報告
        - 6ヶ月に1度が限度(月3名実施)
      - ・介護認定について
        - 訪問調査員により相違があるので、前回調査との違いを確認している。

第4回開催 H13.6.20 5事業所中4事業所、4名が参加  
第5回開催 H13.8.8 5事業所中3事業所、4名が参加

## 訪問介護部会

部会長 渡部照代

- (1) 第2回部会内容
1. 今後の部会開催日程と内容について  
[8月、10月(合同研修会)、1月、3月]
  2. 情報交換会
    - ①かかりつけ医との連携の必要性
    - ②各利用者の担当介護員を3ヶ月毎に交替させる事業者が多い
    - ③ケースが難しい場合は常勤ヘルパーが対応
    - ④基礎的な研修会に是非参加したい
    - ⑤記録の仕方を見直したらどうか
- (2) 第3回部会内容
- 「介護保険・在宅サービス利用者とそのご家族の意識調査」調査報告書より、利用者から出された要望について意見交換(抜粋)
- ①買い物や通院にヘルパー車を利用できないか
    - 利用者に金銭的負担が大きいのが現状。
    - 部会としても移送サービスの早期実現を行政に要望したい。
  - ②質の高い、満足度の高いサービスを提供して欲しい
    - ヘルパー研修の実施が不可欠
    - 介護保険が始まり、時間ぎりぎりまでサービスを行っており、助言したり話し合ったりする時間がなくなってきている。
  - ③担当ヘルパーが交替するのが困る
    - 担当者固定するとサービス過剰になる恐れはないか
    - 数人のヘルパーで担当する方が、利用者の現況が把握できる
    - 利用者宅に記録簿を置くことによって不備がないように務めている。
    - スタッフの絶対数が不足し、満身に休みが取れないのも現状
  - ④病気の時、ヘルパーさんの明るい笑顔、暖かい気持ちで元気が出て、何よりも心のケアが大ききただただ感謝している。
    - 今後の業務の励みにしていきたい

第2回開催 H13.6.19 14事業所中10事業所、13名が参加  
第3回開催 H13.8.21 14事業所中10事業所、14名が参加



# Net News

## 介護保健施設部会 〈リハビリ部門〉

部会長 熊谷 真由美

## 通所介護部会

部会長 森山 茂生

1. 各施設の現状について  
①リハビリの実施状況（入所・通所）  
②問題点  
・スタッフ不足  
・ベッドサイドリハに手が回っていない等
2. 意見交換  
・利用者が病院リハをイメージされている  
・機能回復への期待が大きい  
・グループワークの現状  
・各施設でのレクの取り組みについて  
・老健での装具作成の手続きについて

第4回開催 H13.7.7 6事業所中5事業所、7名が参加

### 訪問リハビリ部会

部会長 野口秀康

1. 「介護保険・在宅サービス利用者とそのご家族の意識調査」調査報告書より要望について検討  
①訪問リハビリの実施時間を長くして欲しい  
→プログラム上は20分以上となっているが現在は、30分以上1時間未満実施。契約を再確認し、ケアマネとの連絡を密にして、説明を十分にしていく。  
②甘木中央病院から現状報告  
・現在は週に4日訪問リハビリを実施している。  
(対象者26名、月平均156件)  
③甘木中央病院から報告に対しての意見交換  
・ケアマネやかかり付け医とのかわりをどのようにしているか。  
・記録はどこまで行うのか。  
・リハビリ計画書はどのようにして立案しているか  
今回は、利用者との契約書の件、医師の指示書と報告の件、ケアマネとのかわりについての協議を行う予定。

第3回開催 H13.7.24 全3事業所、9名が参加

### 福祉用具部会

部会長 副島昌利

会員事業者が広範囲に点在する関係で、なかなか部会を開催することが出来ませんでした。今回初めて顔合わせをかねて部会を開催することができました。

1. 出席者自己紹介
2. 協議会活動のこれまでの経過と現状についての説明
3. 各事業者の状況報告と意見交換

第1回部会開催 H13.7.25 10事業所中5事業所、6名が参加

### 居宅介護支援部会

部会長 鶴我ケイ子

1. 「ケアプランにともなうリスク回避—公証人制度について」  
講師：徳弘至孝氏（日田公証役場 公証人／0973-24-6751）  
①公証制度の正しい理解と上手な活用について  
②任意後見制度について  
③介護支援と人権問題について
2. 「介護保険・在宅サービス利用者とそのご家族の意識調査」調査報告書より、関連する内容を部会で再報告  
①更新認定の結果、介護度が下がって（上がった）良かったこと、悪かったこと。  
②改善の希望や要望  
イ）行政や制度に対して  
ロ）訪問系サービスについて  
ハ）通所系サービスについて
3. 協議会発足1周年記念事業計画について  
\*次回開催は11月9日（予定）

第5回開催 H13.8.10 24事業所中22事業所参加37名が参加

1. 「介護保険・在宅サービス利用者とそのご家族の意識調査」調査報告書より要望等について検討・協議（市町村別）  
市町村別に、要望が出ている件について個別に検討し協議を行った。  
①甘木市  
・マッサージ実施の要望→現在はOT・PTが実施  
・実施時間帯以上の利用料金を徴収されている→各施設で検討  
・介護度が変更になり、利用できるサービスが減少した  
・従事者の技術・経験に差がある→質の向上に向け、各施設で自己点検を実施  
・通所介護実施中には薬をもらえない。→医師による往診実施の場合は注意する  
・従事者の技術・経験に差がある。→各施設で自己点検を実施  
②夜須町  
・衣服がきちんと着せられていない→最後に必ずチェックする  
・職員に冷たくされた→各施設自己点検し、早急に改善する  
・連絡帳が利用されているか→特定の利用者のみの場合もある  
③三輪町  
・有料でも良いから時間延長をして欲しい→各施設で検討する
2. 意見交換  
①パート・契約職員の比率の増加に伴い、正職員へ業務のしわ寄せがきている。  
②実施時間の問題は、各施設とほとんどが6～8時間で実施。  
③パート職員が送迎を担当する施設もある。（送迎ボランティアがいる施設あり）  
④バスの利用率が減少した。（玄関先までの送迎では当然ではないか）  
⑤契約書の問題について（サービス開始時点から契約は成立）

第5回開催 H13.8.10 9事業所中8事業所、11名が参加

### 介護福祉施設部会

部会長 釜堀 始

1. 介護保険施行後、各施設が今抱えている問題点について。  
①デイサービスの職員配置について  
・監査資料への人員数値記載方法について  
・兼務届けの指導の問題  
・その日の利用者数に応じた人員配置の問題等  
②広域連合朝倉支部よりの「保健・福祉・介護実態調査」票の提出依頼について  
・提出先についての問題（県老協へ確認し対応する）
2. 協議会に対する要望等について  
①保健所、関係行政機関との連絡会議開催（案）について  
・本件は現在交渉中。実現に向けて働きかけを行う  
②各専門部会開催日の上司等への報告について  
・施設長等へ事前の報告がなされず、直前になって出席者や勤務変更の話が出ている。拡大運営会議で次回開催日を報告してもらい、各事業所責任者が事前に施設長に報告することとする。（出張としての派遣が行いやすい）  
③介護者のリフレッシュ事業について  
・社協で実施していた介護者のリフレッシュ事業がなくなったが、これから特に必要と思われるので取り組みを行ってほしい。
3. 「介護保健・在宅サービス利用者とそのご家族の意識調査」調査報告書より  
①利用者や家族の生の声が記載されているので、各施設毎に内容を検討し、問題点の是正等に活用して欲しい。  
②パート職員が増加しているが、職員としての守秘義務について各施設で教育の徹底を図って欲しい。（雇用誓約書にその旨の条文追加も必要ではないか）  
③デイサービス等の送迎時の自己費用負担について（施設によって対応は違う）
4. その他  
①協議会設立1周年記念事業について  
②介護認定審査会委員の交代について

第3回開催 H13.8.30

8事業所中7事業所、7名が参加



# 訪問入浴の現場から

訪問入浴部会 部長 芳野 和子  
(所属 介護老人福祉施設さくら荘)

皆様方に少しでも訪問入浴介護の様子をお伝えできればと思います、当事業所の訪問入浴介護開始後初めての利用者で、現在も訪問入浴を利用されておられる方の事例をご紹介します。

— K氏 男性67歳 —

入院中の病院ケアマネージャーさんより、近日退院後は在宅療養される為、訪問入浴を利用したいとの依頼を受け、病院でのカンファレンスに参加し、本人の状態、入浴時の注意事項やバイタルチェックでの入浴可、不可の指示の伝達方法、異常時の連絡方法などを確認しました。

K氏は、昭和63年7月、交通事故により、脳挫傷、頸椎損傷、外傷性くも膜下出血、入院後寝たきり状態へ。その後肺炎を併発されること数回、誤嚥と飲み込み不良の為、平成12年3月にポタン式胃ろうチューブ装着（シリコンチューブ製/4ヶ月間使用可）し、アイソカル500mℓ、白湯300mℓを日に3回注入。アイスクリームやケーキ等は経口摂取は可能。

左上下肢は自力でどうにか動かせますが、右上下肢は麻痺と拘縮があり、胃ろう部よりMRSA陽性反応。（要検査/1ヵ月毎）

以上のような情報を元に、施設内でカンファレンスを実施、K氏の入浴に関する注意事項、消毒方法の問題点を勉強し、設置から入浴等の訓練も行いました。

平成12年8月31日午前、初めての訪問入浴に自宅に伺いました。まずは、バイタルチェック、その後異常なく入浴を始めました。三人のスタッフは不安を抱えながらも慎重に準備を整え、入浴開始。お互いに初めてのせいか緊張がピンピンと伝わります。

無事終了後は笑いもこぼれ、互いに「ありがとうございます」との言葉が出てしまいました。

現在、週2回の利用ですが、回を重ねるごとお互いの気心も知れ、親しみも加わり入浴が楽しみとなりました。K氏もご機嫌の良いときは訪問時に笑って下さいますし、終了後には言語障害がある為言葉少ない中から「ありがとう」と言って下さるようになりました。笑顔も表情もやさしくなられたような気がします。

ご機嫌が悪いときは硬い表情になりますが、奥様からお聞きした好きな歌をスタッフが口ずさんだりして気分転換を図ります。時々ちょっとしたことで急に大笑いをされたりすることもあります。

入浴中は全身状態に注意して、小さな変化であっても訪問看護、リハビリ、主治医の往診の参考になればと思ひ連絡事項と併せて記録簿に記入しています。

訪問開始より1年が過ぎましたが熱発にての利用中止や、胃ろうチューブの入れ替えや骨折による入院の際の中止以外は、ほとんど異常なく入浴をご利用いただいております。

これから冬場に入りますが風邪などをひかれないように気を使いながら、スタッフ一同気を引き締めて訪問させていただくつもりです。

## STAFF PROFILE

### 《役員》

運営部長（介護療養施設部会 部長兼務）

川波浩司（かわなみ こうじ）

医療法人弘医会 太刀洗病院（事務長）

1 映画・音楽鑑賞、テニス、へたなゴルフ

2 ドライブ（特に食べ歩き）、旅行

3 今までに知り合った方たち、これから知り合うであろう方たちとの人間関係 これからの自分の生き方

4 サービスを利用されている方、ならびにこれから利用される方に喜んでいただけるように、甘木朝倉管内における事業者などとの連携を大事にしていきたい。また、協議会が大きく活躍してほしい。

### 研修部長

橋本恵美（はしもと えみ）

医師会ケアプランサービスあまぎ（管理者/ケアマネージャー）

1 スノーボード、ゴルフ

2 ディズニーシーとUSJに行くこと。

3 もちろん出会いです。（深い意味を込めて）

4 住民の皆様が安心して老後を暮らせる甘木朝倉地区になるよう努力していきたいです。

### 《専門部会長》

福祉用具部会 部会長

副島昌利（そえじま まさとし）

(株)太平 タイハイM&C 久留米営業所(所長/福祉用具専門相談員)

1 パチンコ、ドライブ

2 旅行

3 家族、友達

4 微力ながら協力できたかどうかはわかりませんが、参加できた事を良かったと思います。

### ■こんなことを聞いてみました。

1 趣味

2 今、一番したいこと。

3 今、一番大切にしていること（もの）。

4 協議会発足にあたって一言。

### 《専門部会長》

居宅療養管理指導部会 部会長

福嶋正孝（ふくしま まさたか）

福嶋医院（院長/内科医・家庭医）

1 園芸（診療所前の花壇は種まきから植え付けまでやっています。先週、パンジー7,000株を蒔き終わりました。今年もブルーガーデンです。）

2 来年の夏～秋の花壇に何を植えるか考えること。（花壇の準備が終わったら、早速カタログを見ながら次は何を植えるか計画するのが楽しみです。）それと、親しい仲間と酒を飲むこと。

3 奥さんと、我が家の愛犬マウディーとべる。と我が家の3人娘。

4 介護保険制度にはいろいろと問題があるようですが、利用者の方が本当に必要なサービスを充分受けられるように整えていかなくてはならないと思います。そのためには、主治医とケアマネージャー、さらには各事業所との連携がうまくいくことが必須です。その中で出てきた問題を調整解決するためにも、保険者との交渉のためにも、協議会の存在は大きいとおもいます。会員が各部会を通して、自由に意見を出せる協議会となっていきたいと思っています。

### 介護福祉施設部会 部会長

釜塚 始（かまほり はじめ）

社会福祉法人 朝倉社会事業協会

介護老人福祉施設 朝倉苑（施設長）

1 ゴルフ、釣り、散歩程度の山登り、読書

2 旅

3 家族

4 甘木朝倉でこの協議会が発足されたことは良いことだと思われ。今後、超高齢社会にむけて、もっと現場の声を聞き“幸せ”な高齢社会が構築できるように努力していきたい。

◆甘木朝倉介護保険事業者協議会ホームページ [http://plaza22.mbn.or.jp/~kaigo\\_net/](http://plaza22.mbn.or.jp/~kaigo_net/)（リニューアルしました）

### 事務局

甘木朝倉介護保険事業者協議会 事務局  
〒838-0227 福岡県朝倉郡夜須町大字朝日586番地  
介護老人福祉施設 朝老園内  
TEL (092)926-1171 FAX (092)926-3471

### 編集 / 発行所

甘木朝倉介護保険事業者協議会 広報部  
〒838-0823 福岡県朝倉郡三輪町大字山隈501番地  
介護老人保健施設 城山荘内  
TEL (0946)22-1051 FAX (0946)22-1318  
印刷/井上総合印刷株式会社